

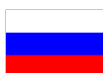
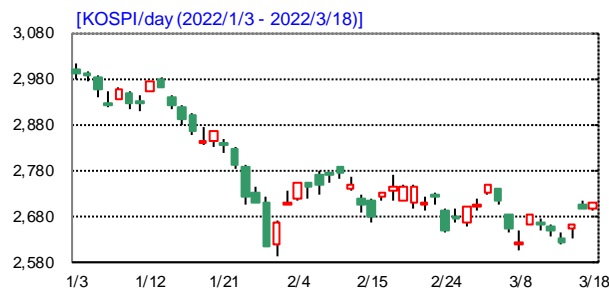


## 【韓国】 総合指数は週間で1.7%高と反発、今週も神経質な展開か

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.7%高と反発。ウクライナ情勢が引き続き警戒されたほか、FOMCを前に様子見ムードも強まり、週前半は軟調に推移した。前週末から15日まで3営業日続落し、15日終値は1月27日以来、約7週ぶりの安値水準に沈んだ。16日は値ごろ感の出た銘柄を中心に買い戻しが入ったほか、米国株や中国株の上昇を好感して4営業日ぶりに反発。17-18日も続伸し、18日は終値で節目の2700ポイントに乗せた。FRBが予想通りに利上げを決めたことで不確定要因が解消したほか、ウクライナを巡る停戦交渉で事態打開への期待も高まった。今週もウクライナ情勢をにらみ、神経質な展開か。17日には新型コロナウイルスの新規感染者数が60万人の大台を突破しており、感染の急拡大が引き続き懸念材料となる。

### ▼指数チャート



## 【ロシア】 モスクワ証取は3週連続で株式取引を停止、今週も休場続くか

### 先週の動き／今週の展望

ロシア市場は3月14-18日の間、株式取引業務を停止した。ロシアによるウクライナへの侵攻後、2月24-25日に取引が行われたが、その後はモスクワ証券取引所が3週連続で株式取引を停止している。モスクワ証取の取引業務停止に伴い、主要なロシア株に投資する米国ETFで、運用資産残高が最大のヴァンエック・ロシアETFも主要取引所のシカゴ・オプション取引所(Cboe)で1週間にわたり取引を停止した。取引が止まるのはこれで7日から18日まで2週連続。一方、為替市場ではルーブルが対米ドルで6週ぶりに反発した。ルーブルは対米ドルで前週末の126.50ルーブルから先週末は109.67ルーブルと21.7%のルーブル高となり、年初来の上落率は32.8%に縮小した。今週も株式市場は休場となるか。

### ▼指数チャート



## 【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.2%高と小幅に反発 今週は底堅い展開か

### 先週の動き／今週の展望

VN指数は週間で0.2%高と反発。ウクライナ情勢を嫌気して週初に下落したが、主力大型株に押し目買いが強まり、その後は週末まで4日続伸した。週初の14日は前週末比1.4%安。ウクライナ情勢の悪化を受けたアジア株・通貨売りの流れがベトナムにも波及した。ただ、15日は朝方こそ売りが続いたものの、主力大型株に押し目買いが強まり、指数は0.4%高と3日ぶりに反発。その後も主力株に買いが続き、指数は18日まで4日続伸した。個別銘柄では空運のベトジェット航空が7.0%高となったほか、金融のベトナム投資開発銀行が4.9%、サコムバンクが3.4%上昇。一方、食品加工のマサン・グループが4.1%、エネルギーのベトナム石油総公社が3.6%、ペトロベトナム・ガスが3.5%下落した。今週は底堅い展開か。

### ▼指数チャート



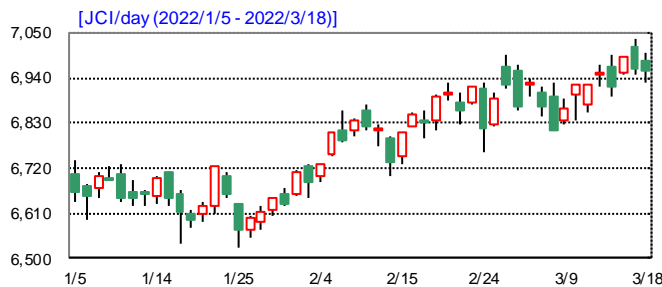


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.5%高、週後半は 7000 ポイントを挟んでもみ合い**

ジャカルタ総合指数は週間で 0.5%高と反発。週後半は 7000 ポイントを挟んでもみ合った。週初の 14 日は、金融株が指数上昇をけん引し、終値で 6 営業日ぶりに過去最高値を更新。15 日は 2 月の貿易収支が市場予想から大幅に上振れたものの買い材料視されずに反落したが、16 日は財務相が国内経済について楽観的な見方を示した効果で引け際に買われ、前日比 1.1%高と 2 日ぶりに最高値を更新した。17 日は場中に一時、7000 ポイント台に到達したが、終値では反落。中央銀行は同日、政策金利を 3.50%に据え置いた。18 日は統落して引けている。今週はウクライナ情勢が好転すれば、株式相場の追い風か。

### ▼指数チャート

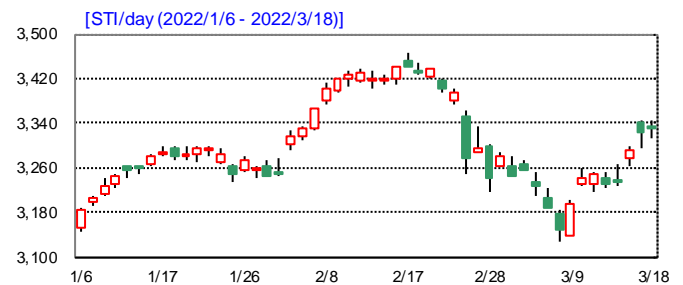


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.5%高、週後半に終値で 3300 ポイント台を回復**

ストレーツタイムズ指数は週間で 2.5%高と続伸。週後半に終値で 3300 ポイント台に乗せた。週初の 14 日は、ロシアに対する制裁の強化と中国での新型コロナウイルスの感染拡大が嫌気され、指数は 4 営業日ぶりに反落。ただ、15 日に小幅反発すると、16 日は前日の NY ダウが原油安を受けたインフレ懸念の後退で大幅続伸した流れを引き継ぎ、前日比で 1.7%上昇した。17 日は米 FOMC 終了に伴う安心感の広がりや、ロシアとウクライナの暫定和平案が進展したとの報道が買い材料視され、前日比 1.0%高。結局、18 日まで 4 日続伸して取引を終えた。今週は 23 日に 2 月の CPI、25 日に鉱工業生産が発表される予定。

### ▼指数チャート

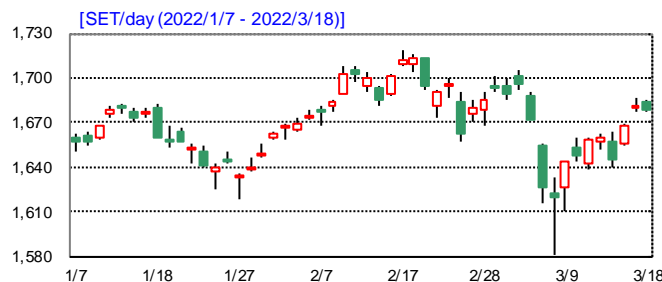


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.2%高、今週は 23 日に 2 月の貿易統計発表**

SET 指数は週間で 1.2%高と 4 週ぶりに反発。外部要因が指数を支えた。週初の 14 日は小幅ながら 4 営業日続伸したが、15 日は原油価格の下落を受けてエネルギー株が売られ、指数は前日比 1.0%安と反落。一方、16 日は中国の劉鶴副首相が景気支援措置を打ち出す方針を示した効果で中国株が大幅上昇した流れを引き継ぎ、前日比 1.4%高と反発した。17 日はロシアとウクライナの停戦協議に対する期待感などから買われたが、18 日は FTSE の構成銘柄見直しでタイ株の比重が低下し、大型株の一角が売られた影響で、反落して取引を終えている。今週は 23 日に 2 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定。

### ▼指数チャート

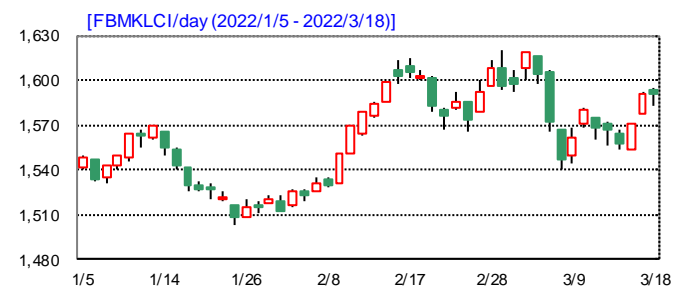


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.5%高、米金融政策への警戒感後退を好感**

クアラルンプール総合指数は週間で 1.5%高と反発。週半ば以降の上昇が奏功した。週初の 14 日は、ウクライナ情勢の悪化が売り材料視される中、金融株の一角が買われたものの補えず、指数は小幅続落。15 日も米国の利上げ見通しなどが買い控え要因となり下値を広げたが、16 日は安値拾いの買いで 4 営業日ぶりに反発した。17 日は米 FOMC 後の声明を受けて、金融引き締めに対する警戒感が後退したほか、中国株の大幅上昇も好感され、指数は前日比 1.2%高と続伸。18 日は 2 月の輸出入額が市場予想を下回ったものの影響は軽微で小幅ながら 3 日続伸して引けた。今週は 25 日に 2 月の CPI が発表される予定。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。